

大学生が振り返るキャリア教育の実際

戸田 浩暢

(2016年10月6日 受理)

A Case Study on Career Education at High Schools Seen from Students

Hironobu TODA

Abstract

This paper analyzes the practices of career education at high schools (viz., academic and career counseling) by conducting a questionnaire on career education at high schools with fourth year students (69 people) in the Department of Child Education and Psychology at Hiroshima Women's University. From the analysis of the survey, this case study examines the ideal way to develop career education at high schools.

Keywords: キャリア教育, 進路指導

1. は じ め に

稿者は、「大学生が振り返る中学校時代のキャリア教育」において、広島県におけるキャリア教育の初期の実施状況を概観し、広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科4年生(47名)に対して、中学校時代のキャリア教育(進路指導)に係るアンケートを実施し、それを分析することで、より望ましい中学校におけるキャリア教育(進路指導)の在り方を考察した。その結果、中学校時代のキャリア教育(進路指導)で最も充実すべきこととして、「自分の個性や適性を考える学習」が求められていることが分かった。また、「どのような職業があり、どのようにして就くことができるのか知る学習」の指導を中学生は求めており、より具体的に詳細な将来の職業選択に向けた情報提供をしていく必要があることが分かった。そして、今後のキャリア教育(進路指導)に関する要望では、自己理解を深める時間や、将来どのような生き方をすることが自分にとって望ましいかを考えさせる時間の確保の充実が望まれることが分かった。

本稿では、広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科4年の学生（69名）に対して、高等学校時代のキャリア教育（進路指導）に係るアンケートを実施し、高等学校時代のキャリア教育（進路指導）の実際を分析することで、今後の高等学校における望ましいキャリア教育（進路指導）の在り方を考察する。

2. 研究の目的と方法

本研究の目的は、広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科4年の学生（69名）に対して、高等学校時代のキャリア教育（進路指導）に係るアンケートを実施し、高等学校時代のキャリア教育（進路指導）の実際を分析することである。また、その分析を元に、今後の高等学校における望ましいキャリア教育（進路指導）の在り方を考察したい。

研究の方法としては、次の表1に示した質問のアンケートを実施し、得られたデータ・記述を分析していく。なお、アンケートに関しては、平成28年6月30日に実施した。アンケート項目の「1」に関しては、平成11年3月に文部省から出された、「中学校における進路指導に関する総合的実態調査報告書」を参考にした。

表1 高等学校時代のキャリア教育（進路指導）に係るアンケート

- | |
|---|
| <p>1 高等学校在学時にキャリア教育（進路指導）に関わって指導して欲しかった事柄に○を付けてください（複数の回答も可です）。
 ①自分の個性や適性を考える学習
 ②進路選択の考え方や方法
 ③進路に関する情報の入手方法とその利用の仕方
 ④上級学校の教育内容や特色
 ⑤将来の生き方や人生設計
 ⑥学ぶことや働くことの意義目的</p> <p>2 上記以外で、高等学校の先生からキャリア教育（進路指導）に関わって指導して欲しかった事柄を書いてください。</p> <p>3 高等学校の先生方に、キャリア教育（進路指導）に関して要望を書いてください。</p> <p>4 自分の生き方に影響を与えた高等学校の先生はどのような人でしたか。</p> <p>5 高等学校の先生以外で、高等学校時代に自分の生き方に影響を与えた人は誰ですか。</p> <p>6 上記の「5」に関わって、どのような影響を受けましたか。</p> <p>7 自分の生き方に影響を与えた高等学校時代の出来事は何ですか。</p> |
|---|

3. 高等学校時代のキャリア教育（進路指導）の実際とその分析・考察

この節では、前節で示したアンケート項目に従って、高等学校におけるキャリア教育（進路指導）の実際についてデータ・記述を元に分析・考察をしていく。

(1) 高等学校在学時にキャリア教育（進路指導）に関わって指導して欲しかった事柄

この項では、次に示す表2の結果を元に分析・考察を行う。

表2 高等学校在学時にキャリア教育（進路指導）に関わって指導して欲しかった事柄

	選択事項	名	%
1	自分の個性や適性を考える学習	36	52.2
2	進路選択の考え方や方法	36	52.2
3	進路に関する情報の入手方法とその利用の仕方	30	43.5
4	上級学校の教育内容や特色	15	21.7
5	将来の生き方や人生設計	20	29.0
6	学ぶことや働くことの意義目的	24	34.8

表2で最も割合が高かった項目は、「自分の個性や適性を考える学習」と「進路選択の考え方や方法」で、共に36名（52.2%）と、半数以上の学生が指導して欲しかったと回答している。「自分の個性や適性を考える学習」に関しては、高等学校時代は本格的に自己と向き合い、積極的に自己の個性とは何か、自己の将来の生活に関わる適性はどのようなものであるかを真剣に考える時期であり、このような結果になったのではなかろうか。また、「進路選択の考え方や方法」に関しても、高等学校では、意図的・計画的に1年生から3年生の進路指導全体計画を綿密に作成し、進路選択の考え方や方法について指導していると考えられるが、より個別的な対応が不十分であるということが分かる。3番目に多かった項目は、「進路に関する情報の入手方法とその利用の仕方」であり、30名（43.5%）と半数近い学生が指導して欲しかったと回答している。高等学校では、十分な進路情報の提供やその活用の仕方を指導するようにしていると考えられるが、高校生にとっては不十分であるということが分かる。

次に、約3人に1人の学生（24名—34.8%—）が指導して欲しかった事項としてあげられるのが、「学ぶことや働くことの意義目的」である。このことに関しては、小学校時代から継続的に考えさせられてきたことであるため、このような結果になったと考えられるが、根源的な内容に関して約3人に1人の学生が指導して欲しかったと回答することを考えた場合、中学校までの指導が十分ではなかったとも考えられる。次に少なかった回答は、「将来の生き方や人生設計」であり、20名（29.0%）と約3分の1に近い学生が指導して欲しかったとしている。高校生になると、大学・短期大学・専門学校等に進学するのか、社会人になり生計を自ら確立していくのかを真剣に考えざるを得ない状況にあり、このような結果になったのではなかろうか。最も少なかった項目は、「上級学校の教育内容や特色」であり、15名（21.7%）と、5分の1の学生が選択をしている。大学等に進学するに際して、大学の情報は紙媒体のみならず大学

の HP 等から詳細に得ることができる環境にあり、このような結果になったと考えられる。

(2) 表 2 以外で、高等学校の先生からキャリア教育（進路指導）に関わって指導して欲しかった事柄

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。なお、枠内の数字は人数を示している。

- ・もっと積極的に進路について話を聞いて欲しかった。
- ・自分に向いている進路をもっと一緒に考えて欲しかった。
- ・進路を選択したうえでの現実問題（給料や住所選択）。
- ・夢がない人にどうやってやる気を起こすか、切っ掛け作りなど。
- ・実際にその大学に通う人の話を聞く機会があったら良かった。
- ・いろいろな職種の実際に働いている人を呼んでの講演会をして欲しかった。
- ・学校の試験に合わせた対策の指導をして欲しかった。
- *様々な職業紹介をして欲しかった。 8
- *県外の大学を含めもっと詳しい情報を知りたかった。 6
- *適性に合わせた進路の考え方。
- 「空白・特になし」 47 (68.1%)

ここで特徴的なことは、47名（68.1%）が、「空白」ないしは「特になし」としていることである。7割近くの学生が、表 2 に示した高等学校時代の指導内容への充実を求めていることが考えられる。これは、表 2 に示した高等学校時代の指導内容で十分であるとも考えられる。

上記の学生の記述をみると、「もっと積極的に進路について話を聞いて欲しかった。」・「自分に向いている進路をもっと一緒に考えて欲しかった。」といったより個別的な対応の充実を望むものや、「実際にその大学に通う人の話を聞く機会があったら良かった。」・「いろいろな職種の実際に働いている人を呼んでの講演会をして欲しかった。」といった、紙媒体やネットなどで調べることができる情報ではなく、より詳細で具体的な生の声を聞いてみたいことが分かる。

そして、表 2 以外で指導を望むことを書くべきところを、「様々な職業紹介をして欲しかった。」（8名）・「県外の大学を含めもっと詳しい情報を知りたかった。」（6名）と、その他を含め、15名の学生が、表 2 と重複することを回答していることである。ここでは、「職業紹介」や「大学の情報」が特にあげられており、高等学校におけるキャリア教育（進路指導）で、これらの指導の充実がより望まれていることが考えられる。

(3) 高等学校の先生方に対するキャリア教育（進路指導）に関しての要望

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。なお、枠内の数字は人数を示している。

- ・進路に関わり、個人的に相談できる時間をもう少し設けて欲しかった。 5
 - ・小論文や面接の指導に係る時間を増やし、模試や試験の対策を早い内から指導して欲しかった。 4
 - ・多くの方の人生の生き方や職業の話について聞いてみたかった。 3
 - ・もう少し一人一人にアドバイスをして欲しい。 2
 - ・国公立大学を目指すという考えを押しつけたり、レベルの高い大学の進学を勧めるばかりでなく、その子の興味や関心に合わせた進路選択の提案して欲しい。 2
 - ・将来どうなりたいかをしっかり話し合った上での職業（進路）選択を指導して欲しい。
 - ・給料のことを考えて保育士になることを止められたり、マイナスのことばかりを言われたので、もっと前向きに将来の話をして欲しかった。
 - *学校に大学の情報があまりなかったため、質問をしに行っても分からないことが多かったので、情報を揃えて欲しかった。 4
 - *一人一人の進路に関して適性を考えた指導をして欲しい。
 - *どのような大学があり、どのような学びができるか1年生から教えて欲しかった。
 - *高等学校の体裁を守るような進路指導をしないで欲しい。
- 「空白・特になし」 44 (63.8%)

ここで特徴的なことは、44名（63.8%）が、「空白」ないしは「特になし」としていることである。6割以上の学生が、高等学校時代の指導内容で十分であると思っていると考えられる。

上記の学生の記述をみると、「進路に関わり、個人的に相談できる時間をもう少し設けて欲しかった。」（5名）・「もう少し一人一人にアドバイスをして欲しい。」（2名）といったより個別的な対応の充実を望むものや、「多くの方の人生の生き方や職業の話について聞いてみたかった。」（3名）といった、様々な経験者が語るより具体的な情報を得たいことが分かる。また、「国公立大学を目指すという考えを押しつけたり、レベルの高い大学の進学を勧めるばかりでなく、その子の興味や関心に合わせた進路選択の提案して欲しい。」（2名）といった、高等学校側の進路指導体制に対する不満を述べている記述もみられた。

そして、「学校に大学の情報があまりなかったため、質問をしに行っても分からないことが多かったので、情報を揃えて欲しかった。」（4名）・「どのような大学があり、どのような学びができるか1年生から教えて欲しかった。」といった、「大学の情報」が特にあげられており、高等学校におけるキャリア教育（進路指導）で、これらの指導の充実がより望まれていることが考えられる。

(4) 自分の生き方に影響を与えた高等学校の先生

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。なお、枠内の数字は人数を示している。

- ・熱心にその生徒に合わせて指導してくれる一所懸命で誠実な先生。 5
- ・厳しさの中に優しさがあり、先生のお話一つひとつが勉強になるような話で、尊敬・憧れる存在であった。父親的存在。 4
- ・個人的に話を聞いてくれ、見放さずに見守ってくれる先生。 4

- ・3年間受け持って頂いた担任の先生。悩んだときに真剣に向き合ってくれたり、楽しかった話をよく聞いてくれたりして、一人一人をものすごく大切にしてくれる先生だった。 4
 - ・担任の先生で、自分の進路に関して将来を見通して大学を選択すべきと教えてもらった。 4
 - ・部活動の顧問の厳しい先生。挨拶や礼儀、マナーの基礎を教えてくれた。 4
 - ・母親のようなしっかりと面倒をみてくださる親身な先生だった。 4
 - ・生徒のことを考えて色々と計画し行動をしてくれた。きちんと叱ってくれる人だった。 3
 - ・自分のことより私たち生徒のことを優先して、相談に乗ってくれた先生。 2
 - ・数学の先生。数学が苦手嫌いになりそうだったが、放課後も残って一対一で丁寧に教えてくれた。 2
 - ・常に明るく、生徒にもフレンドリーに接する親しみやすい先生だった。 2
 - ・日々の積み重ねが大事であるということを、身をもって教えてくれた。
 - ・授業はしっかり行いつつも、息抜きのような雑談をしてくれる先生。
 - ・保育士になりたいことを伝えたとき、色々な大学を教えてくれた先生。大学のことを余り考えていなかったため、大学に行く切っ掛けになった。
 - ・何事も一緒に頑張ろうというような熱い先生。
- 「空白・特になし」 29 (42.0%)

ここで特徴的なことは、29名(42.0%)が、「空白」ないしは「特になし」としていることである。半数には達していないものの、4割以上の学生が、高等学校の先生から自分の生き方に関して影響を受けていないと回答していることが分かる。

上記の学生の記述をみると、「熱心」「一所懸命」「誠実」「厳しさ」「優しさ」「真剣」「丁寧」「明るく」「フレンドリー」「親しみやすい」といった、性格や指導方針に関して自分の生き方に影響を与えたと回答していることが分かる。高等学校の先生が学校生活でみせる生徒への対応が、単なる仕事ではなく、正面から向き合っていることが生き方に多くの影響を与えていると考えられる。また、「個人的に話を聞いてくれ、見放さずに見守ってくれる先生。」(4名)・「悩んだときに真剣に向き合ってくれたり、楽しかった話をよく聞いてくれたりして、一人一人をものすごく大切にしてくれる先生だった。」(4名)・「母親のようなしっかりと面倒をみてくださる親身な先生だった。」(4名)・「生徒のことを考えて色々と計画し行動をしてくれた。きちんと叱ってくれる人だった。」(3名)・「自分のことより私たち生徒のことを優先して、相談に乗ってくれた先生。」(2名)・「何事も一緒に頑張ろうというような熱い先生。」といった、指導姿勢に多くの影響を受けていると考えられる。高等学校時代は、中学校時代同様に学級や部活動における学校生活での友人・先輩・後輩との人間関係で問題を抱えやすく、将来の職業選択に密接に関わる大学受験への不安感が高まり、身近な先生に相談することが多い。その際、共感的理解を示して貰ったり、丁寧な助言を貰ったり、適切な助言をしてくれる先生に対し、自分の生き方に影響を及ぼしていると思っていると考えられる。そして、「担任の先生で、自分の進路に関して将来を見通して大学を選択すべきと教えてもらった。」(4名)・「部活動の顧問の厳しい先生。挨拶や礼儀、マナーの基礎を教えてくれた。」(4名)・「数学の先生。数学が苦手嫌いになりそうだったが、放課後も残って一対一で丁寧に教えてくれた。」(2名)・「日々の積み重ねが大事であるということを、身をもって教えてくれた。」といった指導内容に多く

の影響を受けていると考えられる。

(5) 高等学校の先生以外で、高等学校時代に自分の生き方に影響を与えた人

この項では、次に示す人物の結果を元に分析・考察を行う。なお、枠内の数字は人数を示している。

・友達 12 ・塾の先生 7 ・母親 4 ・父親 3 ・部活動の先生 3
 ・部活動の先輩 2 ・ボランティア講師として来てくださった先生 2
 ・ピアノの先生 ・ボランティア先の高齢者の方
 ○「空白・特になし」 39 (56.5%)

ここで特徴的なことは、39名(56.5%)が、「空白」ないしは「特になし」としていることである。半数以上の学生が、高等学校の先生以外から自分の生き方に関して影響を受けていないと回答していることが分かる。

上記の学生のあげた人物をみると、「友人」(12名)が一番であり、日常生活で最も多く接する友人からの影響が強いと考えられる。また、「母親」(4名)・「父親」(3名)と「家族」からの影響も強いことが分かる。そして、「塾の先生」(7名)が「家族」と同数であり、塾の授業外での触れ合いや面談等で強い影響を受けていると考えられる。高等学校生活で「部活動」に関わる経験が及ぼす影響も強く、「部活動の先生」(3名)・「部活動の先輩」(2名)も人物としてあげられている。

(6) 高等学校の先生以外で、高等学校時代に自分の生き方に関して受けた影響

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。なお、枠内の数字は人数を示している。

- ・凄く優しい友人で、考え方や人との接し方に影響を受けた。 2
- ・夢に向かって努力することを友人から学んだ。 2
- ・友人と出会い、もっと人に優しくしようと思った。 2
- ・友人から大事な人を持つことの嬉しさを学んだ。 2
- ・友人と関わる中で考え方が変わった。 2
- ・友人が誘ってくれたので、保育士になろうと考え始めた。
- ・塾の先生から大学生はどのような生活を行っているのか、バイトと勉強の両立の仕方について学んだ。 3
- ・塾の先生から、勉強の仕方や高校生活を楽しむ方法などを教わりました。そのことで高校生活が楽しく有意義なものとなりました。
- ・幼児教育に関してピアノの先生からいろいろ教えて貰った。
- ・大学に進学する際、どの大学に行くのかなど、親と一緒に将来のことを考えてくれた。
- ・母親から、私の性格などを考慮して、どのような仕事に向いているのか選択肢を考えてくれた。 2
- ・母親から家事全般について学び、また、物事を前向きに考えるようになった。

- ・父親からの進学のアドバイスを今では感謝している。
- ・父親と同じ仕事をしたいと思った。理想の大人像。
- ・部活動の顧問の先生から、部活動に対しての熱い思いを学んだ。
- ・部活動の顧問の先生から、いつも厳しいことを言われたが、今振りかえればためになることだった。
- ・部活動の顧問の先生から、部活動の楽しさや礼儀などを学んだ。
- ・部活動を通して、諦めず努力することの大切さや、辛いこと大変なことをやり遂げた後の達成感を先輩から学んだ。
- ・部活も勉強も頑張られている先輩の姿を見て、私も頑張ろうと思った。
- ・ボランティアでお世話になった先生から、子どもと関わる楽しさややりがいたくさん教わった。 2
- ・部活動で高齢者の方と関わる機会があり、保育の道も良いが介護職も良いと思った。また、デイサービスや特別養護老人ホームなどで実習をさせて頂く中でも、介護の楽しさを知ることができた。

上記の学生の記述をみると、「凄く優しい友人で、考え方や人との接し方に影響を受けた。」(2名)・「夢に向かって努力することを友人から学んだ。」(2名)・「友人と出会い、もっと人に優しくしようと思った。」(2名)といった、学校生活のみならず、日常生活の中で友人と接することで、生き方や考え方に関して多くのことを学んでいることが分かる。同年齢の友人の生き方から自己の生き方を振り返り、反省する中で、強い影響を受けていると考えられる。また、「塾の先生から大学生はどのような生活を行っているのか、バイトと勉強の両立の仕方について学んだ。」(3名)・「塾の先生から、勉強の仕方や高校生活を楽しむ方法などを教わりました。そのことで高校生活が楽しく有意義なものとなりました。」といった、具体的な大学生活(勉強・アルバイト等)や、勉強の仕方・高校生活についてアドバイスして貰ったことに関して、影響を受けていることが分かる。塾の先生から、高等学校の先生と同様に自分が知りたい様々な情報を得られていることが、自分の生き方に関して影響を受けているとしていると考えられる。そして、「母親から、私の性格などを考慮して、どのような仕事が向いているのか選択肢を考えてくれた。」(2名)・「母親から家事全般について学び、また、物事を前向きに考えるようになった。」・「父親からの進学のアドバイスを今では感謝している。」・「父親と同じ仕事をしたいと思った。理想の大人像。」といった、家族からの影響が強いことが分かる。幼少期から身近に接している人物からの影響が多大であると考えられる。「部活動の顧問の先生から、いつも厳しいことを言われたが、今振りかえればためになることだった。」・「部活動を通して、諦めず努力することの大切さや、辛いこと大変なことをやり遂げた後の達成感を先輩から学んだ。」といった、部活動に関わる人物からの影響もあることが分かる。学校生活における部活動のしめる影響力も大きいと考えられる。

(7) 自分の生き方に影響を与えた高等学校時代の出来事

この項では、次に示す事項の結果を元に分析・考察を行う。なお、枠内の数字は人数を示している。

・部活動 11 ・行事（体育祭・合唱祭・文化祭・クラスマッチ・修学旅行等） 10
 ・大学受験に向けての勉強 6 ・ボランティア活動 ・友達が多くできたこと
 ・保育や福祉、家政などの授業 ・留学体験 ・友人の死 ・色々な体験 4
 ○「空白・特になし」 33 (47.8%)

ここで特徴的なことは、33名（47.8%）が、「空白」ないしは「特になし」としていることである。半数近くの学生が、高校時代に経験した出来事から自分の生き方に関して影響を受けていないと回答していることが分かる。

上記の学生のあげた高校時代に経験した出来事をみると、「部活動」（11名）が最も多く、顧問の先生や先輩・同級生・後輩と一緒に放課後や休日等に行われる部活動の経験が、自分の生き方に大きな影響を及ぼしていると考えていることが分かる。学校生活における部活動の占める影響力は多大であると考えられる。また、僅差で、「行事（体育祭・合唱祭・文化祭・クラスマッチ・修学旅行等）」（10名）が多く、同級生と共に体験的に活動を行う中での出来事が、自分の生き方に大きな影響を及ぼしていると考えていることが分かる。学校生活における行事の占める影響力も多大であると考えられる。そして、「大学受験に向けての勉強」（6名）が、自分の生き方に影響を及ぼしていると考えていることが分かる。大学受験に向けての勉強は、自分の将来の職業選択と大きく関わるため、大きな影響を与えたと考えられる。

4. お わ り に

本稿では、広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科4年の学生（69名）に対して、高等学校時代のキャリア教育（進路指導）に係るアンケートを実施し、高等学校時代のキャリア教育（進路指導）の実際を分析してきた。最後に、その分析に基づいて、今後の高等学校におけるキャリア教育（進路指導）の在り方を考察したい。

表2の分析から、今後、最も充実を図るべきキャリア教育（進路指導）として、「自分の個性や適性を考える学習」と「進路選択の考え方や方法」があげられる。「自分の個性や適性を考える学習」に関しては、高等学校の教育活動の中で、実施されてきた内容ではあるが、より一人一人に対応した丁寧な個別指導が求められている。自分の個性や適性に関する理解を深めさせるためにも、学級活動などの特別活動や総合的な学習の時間において、意図的・計画的に指導の徹底を図ることが望まれる。また、「進路選択の考え方や方法」に関しても、進路指導に係る全体計画を入念に作成し、進路選択の考え方や方法について継続的に学ぶ指導が求められている。そして、「進路に関する情報の入手方法とその利用の仕方」に関しては、十分な進路情報の提供やその活用の仕方を指導するようにすることが必要である。

表2以外の、「高等学校の先生からキャリア教育（進路指導）に関して指導して欲しかった事柄」としては、より個別的な対応の充実を望むものや、紙媒体やネットなどで調べることができる情報ではなく、より詳細で具体的な生の声を聞いてみたいことが求められている。一人一人への綿密な対応や、将来の職業に関わって自分の生き方を深く考えさせるためにも、大学生や職業人の話を直接聞く機会を増やす取り組みが必要である。また、表2以外で指導を望むことを書くべきところを、「職業紹介」や「大学の情報」など重複することを求める回答をしている学生が複数名おり、より詳細で具体的な将来の職業選択に向けた情報提供をしていくことが望まれる。職業に関しては具体的な資料・書籍があるので、それらに触れる時間の確保や、生徒の職業選択に関する興味や関心を高める工夫が望まれており、高等学校におけるキャリア教育（進路指導）で、これらの指導の充実がより求められる。

「高等学校の先生方に対するキャリア教育（進路指導）に関しての要望」に関しては、より個別的な対応の充実や、様々な経験者が語るより具体的な情報の提供が求められる。また、高等学校側の進路指導体制に対する不満を述べている記述もあることから、キャリアカウンセリングを充実させ、一人一人のより適性にあった指導が望まれる。そして、「大学の情報」の詳細な提供が求められており、高等学校におけるキャリア教育（進路指導）で、これらの指導の充実がより求められる。

「自分の生き方に影響を与えた高等学校の先生」に関しては、多くの学生が、高等学校の先生の性格や指導方針に関して自分の生き方に影響を与えたと回答しており、教員自身の教育観の確立や豊かな人間性の涵養が求められる。また、教員の指導姿勢に多くの影響を受けていると考えられ、共感的理解を示して、丁寧な助言を行ったり、個人にあった適切な助言が求められる。そして、進路に関して将来を見通して大学を選択すべきであるという助言や、挨拶や礼儀・マナーの基礎等の指導内容の充実が求められる。

「高等学校の先生以外で、高等学校時代に自分の生き方に影響を与えた人」に関しては、「友人」が最も多く、交友関係が深まるような学級経営や学級活動・行事等の工夫が求められる。また、そして、「家族」からの影響も強いことから、懇談会や学級通信等を活用し、生き方に関わる「家族」の重要性を周知する必要がある。「塾の先生」も「家族」と同数であり、学校外での様々な大人から学ぶことの大切さを知らせる必要がある。高等学校生活で「部活動」に関わる経験が及ぼす影響も強く、部活動への参加の呼び掛けや、部活動の充実・活性化が求められる。

「高等学校の先生以外で、高等学校時代に自分の生き方に影響を与えた人」と「高等学校の先生以外で、高等学校時代に自分の生き方に受けた影響」に関しては、同年齢の「友人」の生き方から自己の生き方を振り返り、反省する中で、強い影響を受けていると考えられ、交友関

係が深まるような学級経営や学級活動・行事等の工夫が求められる。また、「塾の先生」から、高等学校の先生と同様に自分が知りたい様々な情報を得られていることが、自分の生き方に関して影響を受けているとしていると考えられ、学校外での様々な大人から学ぶことの大切さを知らせる必要がある。そして、幼少期から身近に接している「家族」からの影響が多大であると考えられ、懇談会や学級通信等を活用し、生き方に関わる「家族」の重要性を周知する必要がある。学校生活における部活動のしめる影響力も大きいと考えられ、部活動への参加の呼び掛けや、部活動の充実・活性化が求められる。

「自分の生き方に影響を与えた高等学校時代の出来事」に関しては、「部活動」が最も多く、学校生活における部活動の占める影響力は多大であると考えられ、学校体制として、部活動の充実が求められる。また、僅差で、「行事（体育祭・合唱祭・文化祭・クラスマッチ・修学旅行等）」が多く、学校生活における行事の占める影響力も多大であると考えられ、「行事」の活性化を図ることが望まれる。そして、「大学受験に向けての勉強」が多く、自分の将来の職業選択と大きく関わる「受験勉強」の意義について、生徒に十分考えさせる機会を設け、積極的に学習する意欲を湧かせる必要がある。

【参 考 文 献】

戸田浩暢「大学生が振り返る中学校時代のキャリア教育」広島女学院大学人間科学部紀要 第3号 2016年 pp. 49-57

広島県教育委員会「キャリア教育実践の手引き」広島県教育委員会ホームページホットライン教育ひろしま (<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/>) 平成28年10月3日